

土木学会「インフラメンテナンス実践研究論文集」および 「インフラメンテナンス実践フォーラム」 投稿要領

1 趣旨および対象

1.1 趣旨

インフラメンテナンスを効率的、効果的に実践していくために、実施主体や実施方法のしくみを工夫した実践例、新技術を導入した好事例が数多く報告されている。これらの取組みは、メンテナンスの手法やしくみ・制度を新たに提案したり、既存のものを改善したりすることで、これまでには達成できなかった効果を創出している点で、工学上、実用上の価値が高い。これらの事例について、一連のプロセスを客観的事実としてまとめるとともに、得られた成果の適正な評価と今後の課題や展望の示唆を論じたものを学術論文として広く公表することは、インフラメンテナンスを実践した好事例が国内外に展開される上できわめて有意義である。

そこで、以下の3つのカテゴリーにおける取り組み事例や実践例を対象として、「論文」「解説」「レポート」の3種の原稿を募集する。対象インフラは、下記に例示するような土木学会が扱うすべてのインフラ分野を含む。

1.2 対象とする内容カテゴリー

A. 担い手と体制

ー組織、市民参加（協働）、人材育成・教育、普及・啓発、倫理、など

B. 技術とプロジェクト

ー技術開発、実験・試行、適用・導入、設計、リニューアル・更新、異分野の協働、など

C. マネジメント

ーメンテナンスシステム、ビジネスモデル、政策・法制度、予算、計画、経済効果、調達・契約方式、合意形成、減災・防災、BCP、アセットマネジメント、環境、国際展開など

1.3 対象とするインフラ

橋梁、トンネル・地下構造物（抗土圧構造物）、走行路（舗装、線路）、交通施設（道路、鉄道、港湾、空港、など）、河川・砂防、海岸・海洋、上・下水道、エネルギー・通信、農業水利施設、など

2 投稿にあたって確認すべき事項

2.1 原稿区分

原稿の区分は、「論文」「解説」「レポート」の3種とする。各原稿区分の内容は以下のとおりとする。

1) 論文：インフラメンテナンスの実践に関わる創意工夫、実施事例、研究、開発、調査等で、有用性または新規性を有するもの

2) 解説：インフラメンテナンスの実践に関わる文献、資料等に基づいて、現行の理解の状態を総合的に論評、解説したもの

3) レポート：インフラメンテナンスに関わる創意工夫の実践例またはアイデア、課題、提言、研究、開発、調査、教育等で、情報の共有にふさわしいと思われるもの

2.2 掲載媒体

登載が認められた論文および解説は「インフラメンテナンス実践研究論文集」に、レポートは「インフラメンテナンス実践フォーラム」に掲載され、いずれも J-STAGE にてフリーアクセスで一般公開される。

2.3 投稿資格、Corresponding Author および著者

全ての著者について、土木学会の会員資格の有無は問わない。投稿原稿には、原稿区分にかかわらず、投稿後の連絡責任者として著者の中から Corresponding Author を 1 名明示すること。

2.4 シンポジウムでの発表

いずれの原稿も、当該年度に土木学会で開催されるインフラメンテナンス・シンポジウムにおいて発表を行う必要がある。論文および解説は対面での口頭発表とし、レポートは対面での口頭発表を基本とするが、オンラインでの発表も可能とする。シンポジウムにおける発表者は、Corresponding Author と同一である必要はなく、著者の中から定めるものとする。発表者は、採択後に指定された方法により届け出ることとし、シンポジウムプログラムは、届け出られた発表者の情報に基づき作成する。

2.5 投稿・査読・掲載に関する主なスケジュール

投稿締切：2026 年 9 月 30 日（水）17:00

査読結果の通知：2026 年 12 月中旬

修正原稿提出期限：2027 年 1 月上旬

最終採否の通知：2027 年 1 月中旬

J-STAGE 公開予定時期：2027 年 2 月下旬

シンポジウム開催日：2027 年 2 月 25 日（木）・26 日（金）

2.6 査読および確認

論文および解説は査読の対象とし、レポートは内容に関する査読ではなく確認の対象とする。査読および確認の方法、ならびに登載可否の判定については「6. 査読、確認および登載可否の判定」による。

2.7 頁数

頁数は、論文および解説は 4 頁以上で最大 10 頁、レポートは 2 頁以上で最大 6 頁とする。ただし、査読による修正に対応するために最大頁数を超えることを編集委員会が認める場合がある。

2.8 登載料

登載が認められた場合、著者は登載料を負担すること。登載料は、論文および解説は 2 万 2 千円、レポートは無料とする。

2.9 内容カテゴリーと発表セッション

投稿時には、原稿区分とは別に、投稿内容の主たる内容カテゴリーを選択する。内容カテゴリーは、投稿内容の整理およびシンポジウムにおける発表セッション編成の参考とする。投稿状況に

より、投稿時に選択された内容カテゴリーと異なるセッションに配置する場合、または複数の内容カテゴリーを合わせたセッションを編成する場合がある。

3 投稿原稿の条件

投稿原稿は以下の条件を満たすものとする。

3.1 使用言語

日本語または英語で書かれていること。

3.2 未発表性

未発表であること。ただし、既に発表した内容を含む原稿でも、新たな知見や取り組み、評価などが加味され再構成された投稿原稿については、投稿を受け付ける。上記の新たな内容が加味されているかどうかの判断は、編集委員会が行う。この判断を的確に行うため、既発表の内容を含む場合には、そのことを論文中で正確に引用すること。

3.3 対象および原稿区分との適合

内容が、本要領で定める対象および原稿区分に適合しているもの。採否の判定は、査読に基づいて編集委員会が判断するため、内容や原稿区分に迷う場合には事前に編集委員会へ問い合わせることが望ましい。

3.4 著者数

著者数は8名までとし、投稿後の追加、削除は認められない。著者の所属に関しては採択日時点のものを記載する。

3.5 題名の変更

投稿後の題名の変更は原則認められない。ただし、内容を加味して編集委員会より題名の修正を求めることがある。

4 原稿の作成方法

4.1 原稿作成例およびテンプレート

執筆にあたっては、以下の土木学会論文集の原稿作成例に従うとともに、本章に示す変更点・条件を満足すること。

(<http://committees.jsce.or.jp/jjsce/pform>)

4.2 和文・英文原稿の扱い

日本語は「和文（通常号・特集号）」、英語は「英文（特集号）」の原稿作成例に従う。

4.3 参考文献の扱い

論文・解説・レポートともに、REFERENCESにおける日本語参考文献の英訳併記は不要とする。

4.4 レポートにおける英文概要等の扱い

レポートについては末尾の英文タイトル・英文著者名・英文概要は不要とする。

4.5 受理日・採択日の記載

受理年月日、採択日には、以下の日付を記載すること。ただし、この日程は編集行程の都合で修

正を行う場合がある。

(Received September 30, 2026)

(Accepted January 20, 2027)

4.6 ページ番号等の扱い

原稿には、ページ番号は記載しないこと。

4.7 原稿書式チェックシート

原稿作成例から判断できない仔細な点について、別紙の原稿書式チェックシートに従うこと。チェックシートは原稿投稿時に添付すること。

5 投稿方法

5.1 提出ファイル

投稿時には投稿原稿およびチェックシートを PDF ファイルに変換したものを提出する。

5.2 投稿方法

原稿投稿専用サイトから投稿する。

5.3 投稿後の扱い

投稿後、査読または確認の結果に基づき、原稿の修正を求めることがある。指定された期限までに修正原稿が提出されない場合、または修正対応が十分でない場合には、登載否となることがある。

6 査読、確認および登載可否の判定

6.1 論文の査読

査読は、以下の観点で実施する。

- ①実践的な内容であって、有用性や独創性が高く、他における実装による各種課題の解決、作業品質や効率の向上、将来の進展が期待できるもの。
- ②特色のある内容で将来の進展につながる考察を含むもの。
- ③有用性、完成度、信頼度、新規性に対して十分評価できるもの。

6.2 解説の査読

査読は、以下の観点で実施する。

- ①文献等に基づき現状や課題、動向を客観的に整理・論評したもの。
- ②課題整理や将来展望に資するもの。
- ③根拠に基づき説得力のあるもの。

6.3 レポートの確認

レポートについては、内容に関する査読は実施しない。ただし、対象および原稿区分を満たしていることを確認するとともに、原稿の体裁、誤字脱字、内容を理解するための基礎的な情報の充足等について確認を行う。これらに不足がある場合には修正を求めることがあり、修正対応が十分でない場合には登載否となることがある。

6.4 不採択論文のレポートとしての取扱い

査読の結果、不採択となった論文は、投稿時の希望により、レポートとして取り扱うことができる。

6.5 登載可否の決定

登載の可否は、査読結果、確認結果および修正対応の状況を踏まえ、編集委員会の審議により決定する。

7 著作権

著作権については、土木学会に帰属するので、登載が決定した場合には、土木学会に譲渡する。著作権に関する詳細については、最新の「土木学会著作権に関する規則」を参照のこと。

8 投稿区分別概要一覧

項目	論文	解説	レポート
掲載媒体	実践研究論文集	実践研究論文集	実践フォーラム
査読・確認	査読あり	査読あり	内容査読なし、体裁等確認
頁数	4～10 頁	4～10 頁	2～6 頁
登載料	22,000 円	22,000 円	無料
シンポジウム発表	対面口頭発表	対面口頭発表	対面またはオンライン可
英文概要等	必要	必要	不要

9 付記

本要領は 2026 年度募集分として受け付ける原稿に適用する。

10 制定・改正履歴

2021 年 6 月 22 日 制定

2022 年 6 月 8 日 改正

2023 年 7 月 1 日 改正

2025 年 7 月 1 日 改正

2026 年 7 月 10 日 改正

以上